

「IT社会のこれから」

穏やかな正月でした。家族の絆を深めるとともに、新年の決意を立てましたか？

さて、今日は元日の新聞からの話をしたいと思います。平成29年（2017年）がスタートするにおいて2017年はどんな年になるのか、どんな社会になるのか、各新聞社はどう論説をたてているのかということで各新聞に目を通すことにしています。

南日本新聞は「ヒマラヤを越える鶴に」でした。インドへの越冬のためにヒマラヤを越えるアネハヅルにたとえて、地域社会の疲弊が厳しいが力を合わせて手探りして前に進もう……。

朝日新聞は「憲法70年の年明けに～『立憲』の理想をより深く」（1947.5.3 日本国憲法施行。立憲主義……公の権力を制限し、その乱用を防ぎ、国民の自由や基本的人権を守るという考え方）でした。

日本経済新聞は「揺れる世界と日本～自由主義の旗守り活力取り戻せ」、読売新聞は「反グローバリズムの拡大防げ」、毎日新聞は「歴史の転換～日本の針路は世界とつながってこそ」でした。三社とも大まかには、トランプ氏の勝利と英国のEU離脱に象徴される反グローバリズムや自国利益主義の主張に対する懸念と進むべき日本のあり方の主張です。

上は、1年生に向けての3人の先輩の講話の様子（12/28）。大学のことや高校時代の勉強等についてのアドバイスをしてくださいました。

下は、恒例の1年生の「百人一首カルタ大会」（1/12）。

今日は、IT社会のこれからについて話をしたいと思います。

日本経済新聞のトップは、「『当たり前』もうない～逆境を成長の起点に」というタイトルでした。急激な技術の進歩やグローバリゼーションが、過去の経験則を猛スピードで書き換えていくというのです。ある技術革新によって、今までの経験や知識が突然通用しなくなるということです。そのことを、昨日までの延長線上にない「断絶 Disruption」の時代が来るとしています。盤石に見えた事業やサービス、技術やノウハウが突然陳腐になる。デジタルカメラの登場で消えた写真フィルムやネット通販に押される街の本屋などがその例でしょうか。

日本特殊陶業（宮之城工場がありますね）の技術が紹介されていました。日本特殊陶業はオンリーワン・ナンバーワンの技術で、自動車エンジンに不可欠な点火プラグの世界市場の約4割を生産しています。得意のセラミック技術を利用して人口骨の開発に取り組んでいるということでした。歯磨き粉に見えるペーストを押し出すと石のように固くなって、さまざまな形の人口骨がつくられる。その新規開発の契機は、トヨタ自動車の1年前の「脱ガソリン車」宣言です。脱ガソリン車には点火プラグは不必要です。企業は「断絶」の時代を生き抜くために、さまざまな取組をしています。

世界は、「第四次産業革命」を迎えています。AI（Artificial Intelligence 人工知能）やロボット（ロボティクス）、IT（Information Technology 情報技術）、IoT（Internet of Things モノのインターネット、即ち家電製品などあらゆるモノがインターネットに接続）、VR（Virtual Reality 仮想現実）等が、私たちの生活を一変させます。10年前には存在しなかったモノで今は身の回りにはあるものはたくさんあり



ます。自動運転やドローン、そしてスティーブ・ジョブズが開発したスマートフォンです。「Iphone」は、今から10年前（2007年）に発売されました。このスマホが生活をどう変えたかは、みなさんが実感しているところでしょう。朝日新聞は「シェア」の時代が来ると特集をしています。IT技術をどう活用かが問われています。

20世紀の生産性向上がブルーカラーの肉体労働の代替だったのに対し、これからは人工知能（AI）によるホワイトカラーの頭脳労働の代替であると言われています。

人工知能（AI）と人間の頭脳の対決は、AIがチェス界（1997）、将棋界（2012）、囲碁界（2016）で一流プロ棋士を負かしました。「ロボットは東大に入れるか」という研究テーマの「東ロボ」君は、関東ならMARCH、関西なら関関同立の難関私大に合格率80%を獲得するまでになりました。その中心メンバーの一人新井紀子（国立情報学研究所教授）氏は、2030年には現在のホワイトカラーの仕事の半分がAIに置き換えられるという予想（この予想はオックスフォード大の研究と一致）しています。「AIが社会で働くようになったとき、あなたは何をしていますか？」と問いかけ、AIの可能性と限界をきちんと見極め・対策をとる必要があると主張しています。AIは論理と確率と統計だけで成り立っていて、AIの弱点は「まるで意味が分かっていない」ということだそうです。意味を理解しなくてもできる仕事は、やがてAIに奪われるでしょう。新井紀子氏は、「ロボットは東大に入れるか」を通じてわかったAIによって不幸にならない唯一の道は、「意味」を理解する人になることだそうです。意味を理解し、AIを利用できる人です。

日本経済新聞は、「IT（情報）を人間から仕事を奪う脅威などと遠ざけず、上手に社会に組み込む視点こそが大切」としています。新しい時代を築くには新しい発想が欠かせません。その主役は当然、ITとともに育ってきたあなたたちです。

「退路を断って、本気で勉強せよ」 進路指導部 三原純孝先生

1月14日（土）・15日（日）に行われる大学入試センター試験には本校からは27人が受験します。この試験には全国で575,966人が受験します。これは現役高校生の43.9%が受験するという計算になります。本校の受験率が40.3%ですから、大変な数字ですね。

さて、今年オリンピックイヤーで卓球女子団体では2大会連続でメダルを獲得しました（ロンドン銀メダル、リオ銅メダル）。前全日本女子卓球チームの監督であった村上恭和氏のことについてちょっと話をしたいと思います。

「私は今まで福原愛や石川佳純など多くのトップ選手を見てきましたが、メダルを取れるか取れないかの差はどこにあるかという、『本気で思っているか口先だけか』です。本気で思っていればその人は行動します。口先だけの人は行動しない上に言い訳をします。行動すると、どこかで「ああ、もう無理かな」と思う場面がありますが、そこであきらめずにやる人だけがメダルを取れるのです。また、力が拮抗している中で最後の勝敗を決するのは、目に見えない思い、周囲の応援がどれほど多いかです。周囲に対して感謝できない人間は一時的にはよくても、結局長続きできません。このことはスポーツだけの問題ではなく、あらゆることに通じていくのではないかと思います。」

いかがですか？今君たちは『本気で』ものごとにあたっていますか？どれほどの『思い』を持っていますか？自分の能力や家計のことなどを理由に自分をあきらめていませんか。村上氏もおっしゃっているようにこのことは『あらゆることに』通じるのです。つまりあなたの生き方に通じるのです。大学に行きたいと思ったら本気で勉強して下さい。先生になりたいと思ったら本気で思い続けて下さい。そして退路を断つぐらいの覚悟で取り組んで下さい。そうすれば「意はずから通ず」となります。センター試験まであと23日（12/22 終業式）、これを短いとみるかまだまだとみるかはあなたの心次第です。

~~~~~  
大口高校を代表して指宿菜の花マラソンに3人（中野・三原・山之内）が参



~~~~~  
加しました。出発前は雨でしたが後は晴れ、苦しみながらも3人も完走し、今年も感動をもらいました。
~~~~~